



## 法学部 佐藤寛稔先生推薦

『ゼロからわかるブラックホール—時空を歪める暗黒天体が吸い込み、輝き、噴出するメカニズム』

大須賀健  
(講談社)

本書は、秋田県にかほ市出身の著者が書いた2011年講談社科学出版賞受賞作である。

この本はそのタイトルが示唆するように「誰でもわかるように」という筆者の配慮のもと、数式の意味が分からなくても理解できるように書かれているので、なにやら難しい理論物理学の本だと臆せずにとりて欲しい。

現在では、ブラックホールが、SF小説にのみ登場するような空想上の天体ではなく、既にその存在が実際に確認されていることを私たちは知っている。それに加えて、本書を読めば、ブラックホールは非常にパワフルな天体であり、そして私たちの天の川銀河の中心部に超巨大ブラックホールが存在するように、実は星や銀河を含めた宇宙全体の構造に影響を与えているということを知ることができる。

しかし、そうした新しい知識以上に私が本学の学生の皆さんに感じてもらいたいのは人類史上に名を残す碩学たちが、この目に見えない天体を理論上、つきとめることができたのは、彼らの思考のもとになる基礎理論に忠実であったからであるということである。ニュートンなら万有引力の法則、アインシュタインなら相対性理論がまさにそれである。

実は、こうした基礎理論を「ものさし」とする思考方法は自然科学の分野だけでなく社会科学の分野でも極めて有益である。我々は、目の前にある問題を解決するために各論的な議論に目を奪われがちである。しかし、その際には各分野の基礎理論を想起することが、真理の近道になることが本書を通じて学ぶことができる。